

【2026 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
人間関係論		必修	1	1 (リ) 1 (人-25)	前期 (変則)	
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー			
前川 真奈美	B304	manami.maekawa	金曜日 12:10~13:00			
授業の目的・概要	<p><目的>心理学的な視点から人間関係のしくみや特徴を学び、さまざまな人間関係のあり方を理解する。さらに、自分自身の関わり方を見つめ直すことで、人間関係を多角的に捉える力を養うことを目的とする。</p> <p><概要>出会いから親密になるまでの人間関係の進展過程に沿って、印象形成、対人魅力、コミュニケーション、友人関係、集団心理、恋愛関係、親子関係、文化といったテーマを扱う。各回では、簡単なワークや事例、受講生同士の経験の共有を通して、人間関係における特徴や気づきを得るとともに、自分自身の「人との関わり方」について考える機会を提供する。</p>					
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク					
学習上の助言	ワークへの回答や指名による発言を求めながら進めるため、積極的に参与してほしい。講義内容に関する疑問が生じた場合にはそのままにせず、講義中の質問やリアクションペーパーを活用し、理解を深めてほしい。					
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料 (PDF ファイル) を配付する。					
参考書	はじめてふれる人間関係の心理学 (ライブラリ心の世界を学ぶ 6) /著・榎本博明/サイエンス社/2018 年					
外部教材	なし					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	日常の人間関係において生じる事象を、心理学的な視点から捉え、その背景を理解し説明することができる。			HSU (2)、(5)		
②	多様な人間関係のあり方を理解し、自分なりの関わり方を考察することができる。			HSU (1)、(2)、(4)		
③						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	オリエンテーション －人間関係の「モヤっと」「ハテナ」を共有する。	講義・演習	これまでの自分の体験を振り返り、講義内容と合致する現象を見つける。 配布資料をもとに講義内容を整理し、リアクションペーパーを提出する。			
2	「出会う」の人間関係 －第一印象と思い込みについて学ぶ。	講義・演習				4
3	「気になる」の人間関係 －相手に魅力を感じる要因について学ぶ。	講義・演習				4
4	「伝わる・すれ違う」の人間関係 －言語・非言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義・演習				4
5	「仲良くなる・集まる」の人間関係 －友情を形成する要因と葛藤、集団の心理について学ぶ。	講義・演習				4
6	「親密になる」の人間関係 －恋愛の様式について学ぶ。	講義・演習				4
7	「つくられる」の人間関係 －親子関係について学び、自分の関わり方について考える。	講義・演習				4
8	「見え方が変わる」の人間関係 －文化的視点から人間関係を捉え直す。	講義・演習				4
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照					

【2026 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		60	0	0	0	40	100
総合 力 指 標	知識・技術力	40	0	0	0	5	45
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	15	35
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	5	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	5	5
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点				
試験	①	✓	講義内容の理解度について、学期末に定期試験を実施し評価する（60点満点）。 定期試験では、本講義で習得した知識を応用した選択問題を出題する。			Teams を利用して、総評や個別のフィードバックを行う。	
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	各回講義後に、Teams の課題機能を用いてリアクションペーパーの提出を求める。講義内容に関する考察や気づきが具体的に記述されているかを評価する（全8回、各5点満点で計40点満点）。			締め切り後、評価点を付して返却する。 リアクションペーパーで受けた質問については、講義中にフィードバックを行う。	
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	公認心理師資格を有し、2年の心理査定業務の経験がある。						
実践的授業の内容	専門性とこれまでの経験をもとに、受講生がイメージしやすい具体例や実践的な情報を交えながら授業を進める。						
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> 自らの考えを記述する課題（ワーク、リアクションペーパー等）において、生成 AI の出力結果を利用することを禁止する。これに反した場合は評価の対象外とする。 						